ふれあいのひろば

かわら版

平成23年７月１日発行
上平間第二町会
編集責任者
堤　　秀夫
印刷所　長谷川印刷㈱

三部合同勉強会

高齢社会部・防災部・衛生部

左・草薙防災部長、右・黒澤高齢社会部長

第二町会が先進的に取組んでいると、自他共に認めている高齢社会部、防災部、衛生部の合同勉強会が、５月28日㈯、29日㈰、６月４日㈯、５日㈰の４日間、町会内を４班に分けて開催されました。

この狙いとするところは、独居老人等見守りネットワーク、ミニ・ディサービス、防災部の災害救助ネットワーク、震災に対する備え、衛生部の廃棄物減量指導員補助員の役割、ミックスペーパーの取り扱い等、いずれも町会員に地についた取組みをお願いするため、内容の深化浸透を計ろうと計画されたもので、10年近く続けられております。年々、理解者の層が積重なり増加して町会内に全体的に効果が沁み渡る長期的な展望に立った勉強会です。

さて、今、東北大震災で日本全体が未曾有の危機にさらされております。一日も早い復旧復興がなされる事を祈りつつ、亡くなられた方達の御冥福と被災された方達の御見舞いを申しあげます。

地震特集

防災部

勉強会資料から

＝備えあれば憂いなし＝

上平間第二町会

地震に備えての資料は防災部部長を始めとした防災部役員の勉強を重ねて作成したものです が、抜粋の形で御紹介します。

◎日本列島とその周辺Ｍ７以上の地震
◎地震発生のメカニズムと活断層
◎新聞などで目にする区分の代表は
◎マグニチュードと震度の違い
◎地震の規模
◎液状化現象とは
◎高波、高潮、津波の違い
◎地震から身を守る手引き
◎ＮＴＴの伝言ダイヤルの使い方（携帯、固定、両方ＯＫ）
◎命を守った防災教育

以上の項目について詳細に説明がなされ、川崎市から借用したビデオの放映も実施されました。

以下、主立ったものについて抜粋してご紹介いたします。

地震から身を守る手引き

グラグラッ!!地震だ!!それ逃げろ!!まずこうした行動は避けなければならない。震源地との相関もあるが、老朽家屋は別として建物が一瞬にして潰れるような事はない。逃げるという行動は生命を守るための最終の手段であって、その前にやらなければならない大切なことがいくつかある。はやる心を落ち着かせ、まず何をしなければならないか判断し行動することである。

1、身の安全確保

屋内なら机やテーブルの下など、但し阪神大震災で犠牲者の84％が建物、家具倒壊等による圧死、そこで建物倒壊の恐れがあるときは状況判断のうえで戸外へ避難。

(A)過去の地震被害の例から見ると、建物の1階より2階の方が比較的安全であることが多い。

(B)寝室は寝ている間に地震が起きると一番危険な場所になります。寝室に家具を置く場合は、転倒防止又は倒れても人に当らないよう工夫する。

(C)台所やリビング等のガラス種の入った家具の点検をして下さい。開き戸等のガラスはフィルムを貼るなどして飛散の防止をしましょう。又開き戸は揺れても開かない様に止め金で止めておくようにしましょう。

(D)家具の転倒防止や、高い所に物を置かない様に。

2、すばやく火の始末

直ちに消すか、離れた場所では揺れが収まってから消す。

3、火が出たら初期消火

壁板から天井へと燃え移るまで3～5分かかり、大揺れ（約1分）が収まってから消す。あきらめずに消す。

(A)消火用品、防火用品の置き場所や使い方も習熟しておきましょう。

(B)灯油、食用油の場合。

㋐消火器で消す。

㋑大量の野菜やぬれタオルを一気にかぶせ油温を下げて消す。

㋒大きな蓋を手前の方からすべらせて、空気を断って消す。

(C)石油ストーブが倒れた時、油が広がらない様に引き起こす。

㋐消化器で消す。

㋑バケツの水を燃えている上から一気にかぶせるようにかけて消す。

㋒毛布等をかぶせ、その上から水をかけて消す。

(D)電気器具や配線等の火災の場合電気火災は、感電の危険があるので、ブレーカーを切る。コンセントを抜く。スイッチを切る等をして電流を断ってから消す。

4、出口の確保

出口のドアーが変形し開かなくなるケースがあり戸外へ避難出来なくなる。

5、あわてずに外に逃げる

瓦やガラスの飛散、看板等の落下物に注意、あわてて素足の避難は危険。

(A)家のガラス戸には飛散防止用にフィルムを貼るなり、カーテンを引くなりする。

6、避難経路の確認

落下物、ブロック塀等に注意、事前に安全な避難経路を確認

(A)自宅のブロック塀の点検。人が通っているときに倒れると怪我をしますので古くもろくなっていたら、安全な物に変えることも考えましょう。

(B)地震直後に余震を避けて避難する。第一避難所をご近所の人と相談して下さい。

(C)地域にある市指定の避難所（最寄りの小・中学校）が何処か名前と場所を確認して下さい。

(D)避難の道順は最短距離を優先するのではなく、道路の道幅や電柱のトランスの有無、その他危険がないか確認して安全性を第一に選んでください。

(E)右の条件に照らして二通りの道順を選んで下さい。

7、隣近所の助け合い

家族の安否確認、ご近所の安否確認、倒壊家屋の中に閉じ込められた場合、災害救助隊の連絡網にのせて救援を頼む。

8、協力しあって応急救援

地域ぐるみで応援、救急医薬品や三角布の使用法や蘇生法等の応急処置法を知っておきましょう。

9、災害から子供たちを守るための心得

運動場では、建物、塀、バックネット等から離れ、中央部に集まって、教職員の指示を待つ。通学路が危ない事もあるので、勝手に帰宅しない。又学校側も、無理に帰宅させない。保護者が迎えに来た時は氏名を確認してひき渡す。

10、公共の避難所

事前に、時避難所を指定、避難者確認のうえ救援物資が届く本部に移動。

11、家族との連絡

勤めや、通学、所用の為に家を離れた家族との連絡方法を決めて手帳等に書き留めておくなどしておきましょう。

(A)電話の不通、交通の混乱の際はどんな方法があるか。通勤、通学先の条件も配慮して連絡方法を考えておきましょう。

(B)ＮＴＴの伝言ダイヤルの使い方（携帯・固定・両方ＯＫ）

171
1 → 白宅の電話番号（市外局番よりダイヤル）（安否を伝えたい）
2 → 相手の電話番号（市外局番よりダイヤル）（安否を知りたい）

参加者の感想

6月5日

◎本日はありがとうございました。今までは同居している祖母（81才）が町会のことはやらせていただいておりましたが、いろいろとわからないこと、大変なこともでてきましたので、代理として参加いたしました。

◎この地域に住みながら、知らないことも多いので今日の説明会に参加してまだ少しですが、わかったことがあったので、良かったと思います。

◎お話にもあったように第二町会でも高齢化しているなと日々感じております。若い世代には「町会」というつながりをめんどうに思うところも多いので、しぜんに参加できるように、もっと若い人も増えていってほしいと思っています。

◎高齢社会部、防災部、衛生部の合同勉強会に本日参加いたしまして改めて感謝致します。良い勉強させて頂きました。これは理事委員だけでなく参加出来る人は是非聞かして欲しいと思います。

◎日頃、防災などの知識などに意識していませんでしたが、今回の勉強会で地域住民の方々と協力して行きたいと思いました。役員の方々高齢者の方が多いので積極的に今後参加をしたいと思います。

◎役員の方、ご苦労様でした！これは理事委員だけでなく参加出来る人は是非聞かして欲しいと思います。

◎日頃、防災などの知識などに意識していませんでしたが、今回の勉強会で地域住民の方々と協力して行きたいと思いました。役員の方々高齢者の方が多いので積極的に今後参加をしたいと思います。

◎役員の方、ご苦労様でした！

◎高齢者問題や震災などについて、地域との関係で余り考えることがなかったので、参考になった。

◎できれば、高齢者訪問などは定期的にやれるように対象者などを紹介してもらえれば…

◎この問題だけでなく、年２回程度で各専門部の活動を紹介してもらえれば、役員や委員も高齢化しているので、もっと世代交代も含めて交流をしたほうが良いのでは。

◎夜にゴミを出す人への対策は何かできないものか。中には「営業用」のゴミもめだつ。特に町会に加入してない人々への対策ができないか。

◎地震について。

自分では、だいたいのところはわかったつもりでいましたが、今回、不充分だった点に気がつき、さらに具体的なプリント、ご説明により、より深く理解できました。

◎高齢者世帯へのとり組み。

現在の活動内容など、今迄あまり知らなかったことが、よくわかりました。他人ごとと思わず、普段からの気配りが大切だと感じました。

◎意識を高めながら、少しずつ取り組んで行きたいと思います。隣・近所の方々と常に一緒に行動したいと思います（声を掛けあう）。良い機会を与えていただいて、ありがとうございました。

東日本大震災義援金

第二町会は10万円の義援金を読売新聞社を通じて拠出しました。掲載された新聞記事をコピーして回覧いたしました。

東日本大震災に思うこと

普段、それ程テレビを見ている方ではないのに、三月十一日のあの震災の日からは、夜眠っている間以外は二、三週間、テレビに釘づけで今迄生きて来た人生の中で今、こんな映像をまざまざと見るとは思いませんでした。獣のように人家田畑を呑み込んで行く津波、家も車も船もおもちゃのようにと云っては大そう失礼とは思いますが、外に形容の言葉もないあの画面が頭から離れません。まして千年に一度とやらの大地震に加えて、原子力発電所の無残な姿を毎日毎日気を揉んで見る程に大きな不安が一杯です。

テレビを見て居るだけでも辛いあの事実を、現実にあの地域の方々の苦しみを思うとき、どんな事でも、少しの事でも日本中の人々で支えて行かなくてはと、そして、永くなる事でしょう、忘れずに辛抱強く支え続けて行かなくてはと思う日々です。　松　苑

日本列島とその周辺Ｍ７以上の地震（1885年～1995年）

名　称	発生年月	ﾏｸﾞﾆﾁｭｰﾄﾞ	死者・行方不明	損失家屋
関東大地震	大正 12.09.01	7.9	142.807	576.262
東南海地震	昭和 19.12.07	7.9	1.251	19.367
南海地震	昭和 21.12.21	8.0	1.443	13.119
福井地震	昭和 23.06.28	7.1	3.769	40.035
十勝沖地震	昭和 27.03.04	8.2	33	921
チリ地震津波	昭和 35.05.23	9.5	139	2.830
新潟地震	昭和 39.06.16	7.5	26	2.250
十勝沖地震	昭和 43.05.16	7.9	52	691

名　称	発生年月	ﾏｸﾞﾆﾁｭｰﾄﾞ	死者・行方不明	損失家屋
伊豆半島沖地震	昭和 49.05.09	6.9	30	139
伊豆大島近海地震	昭和 53.01.14	7.0	25	96
宮城県沖地震	昭和 53.06.12	7.4	28	1.183
日本海中部地震	昭和 58.05.26	7.7	104	987
長野県西部地震	昭和 59.09.14	6.8	29	24
千葉県東方沖地震	昭和 62.12.17	6.7	2	16
釧路沖地震	平成 05.01.15	7.8	1	12
北海道南西沖地震	平成 05.07.12	7.8	230	594

名　称	発生年月	ﾏｸﾞﾆﾁｭｰﾄﾞ	死者・行方不明	損失家屋
三陸はるか沖地震	平成 06.12.28	7.5	3	72
兵庫県南部地震（阪神、淡路大地震）	平成 07.01.17	7.2	6.433	104.900
新潟中越地震	平成 16.10.23	6.8	68	16.000
能登半島地震	平成 19.03.25	6.9	358	684
岩手、宮城内陸地震	平成 20.06.14	7.2	23	88
東日本巨大地震	平成 23.03.11	9.0	25.673(5/1 現在)	

スペイン旅行のハイライト

ラマンチャ・ドンキホーテの風車

イベリア半島に位置するスペイン、今回の海外旅行はここを訪れた。

世界遺産が数多く存在する国、中でもガウディのサグラダファミリアは、唯一見逃すことのできない観光地である。

地中海の青い海と輝く太陽に彩られた町バルセロナは、カタールニア州の州都、サグラダファミリアはその町の中心にあり、観光のハイライトになっている。

その建築物はガウディが生涯をかけて建築に従事し、未完成のまま世を去った。今でも信徒の人々の意思が引き継がれ、寄付金等によって建築が進められている。

外観は鐘塔が8本（生誕のファサード4本、受難のファサード4本）天に高くそびえ、まさに迫力満点です。聖堂内部に入るとそこは十字架の形になっており、天井はドーム型で、柱は木が枝分かれした様なかたちで支えていました。内外部ともイエス様の生涯を表現した彫刻で飾られ、又、その関連の彫刻作品にも目を見張るものがありました。しばしその場で休息し、疲れも忘れて荘厳な気持ちになりました。

もうひとつの旅の楽しみは、フラメンコを鑑賞できたことでした。本場、フラメンコの踊りに強烈な印象を受けました。歌い手、踊り手、ギター奏者が三位一体となってステージを盛り上げます。踊りは情熱的、躍動的で靴音を自由に操り、強烈なリズムをかもし出しています。その振動が客席まで力強く伝わってきました。素敵で感動的な一夜でした。

心残りは、本場の闘牛を見ることが出来なかったことです。

今回の旅行は、高齢者の多い中、堤会長の統率の下事故ひとつなく全員無事に帰国いたしました。皆さんと一緒に海外旅行が出来るということを非常にうれしく、又、人生の喜びです。思い出に残る素敵な旅でした。　記・高野　忠雄

バルセロナ・フラメンコショー

わが思い出の記 ―最も大事なものは両親である―

古屋　康雄

私は八五歳になりますが、沢山の思い出の中から、両親の事という至極当然の題を選んだのは、戦争の異常を考えての事です。

大東亜戦争が始まって早々の昭和一八年三月、十七歳となった私は埼玉県朝霞にある陸軍予科士官学校に入校し、戦争中なので在校期間一年で卒業、昭和一九年には埼玉県入間市にある陸軍航空士官学校に進学しました。航空士官学校は陸軍航空隊の将校を養成する学校ですが、今次大戦が制空権を確保する側が勝つとされていましたので、その国運を左右する戦いに身を投ずる決意とその名誉を誇りとして、毎日勉強に訓練に励んだものでした。

予科では今の大学の教養学課のような勉強でしたが、航空士官学校では一年間、航空将校に必要な軍事知識、即ち戦術、通信、気象、航法、整備、爆撃、射撃等々を習得し、翌年からは飛行機の操縦教育を受け、その基礎教育が終了で卒業し、その後実戦訓練を経て第一線に出られるようになるものです。

さてこの様な過程を経て教育を受けるのですが、操縦の教育が始められる前に、搭乗する飛行機の機種の選択が行われます。私は当時キー64という素晴らしい爆撃機に乗りたくて、爆撃を希望し、その要員として教育を受ける事になって、埼玉県の坂戸市にある飛行場に移動しました。ところがその頃はもう昭和二十年の三月ですので、米軍のB29による本土爆撃が激しくなって、内地での操縦教育は不可能になってしまい、急に変更されて満州で教育を受ける事になりました。当時の状況からして、再び日本に帰ることはないものと想像できましたので、私は両親宛に、満州行きは秘密なので、軍刀と両親の写真を欲しいと手紙を書きました。これを見た両親はその裏をすぐ読み取ってくれたらしく、両親が揃って坂戸の飛行場に訪ねてきてくれました。

当時は誰にも言えないことでありましたが、操縦教育を受ける事は何時起こるか解らない飛行機事故死と隣り合わせの事でしたので、まだまだ若年でありながら、惨めな事故死を考えると、その恐怖に慄かざるを得ませんでした。たまたま、同室に寝ていた親一人子一人の優しかった一年先輩が、不幸にもその飛行機事故で亡くなったのを身近に見て、なおこの一層怖さが募ったものでした。また、その一年先輩の五十八期生（私は五九期）の時は、最初から高等練習機から始めるという無理があったのか、事故が多く毎週事故死の葬儀が行われ、徳川幕府の末裔であった、校長の徳川好敏中将の読む弔辞を聞いている生徒はそれを覚えてしまう程でした。

いよいよ自分の順番となり、その上満州に不帰の旅立ちに行く、何とも言い現せない思いに苛まれている時、急を知って駆けつけてくれた両親の顔を見た私は、不思議とその怖さが消えて、もうこれでお別れが出来た、思い残す事はないと心をスッカリ落ち着けることが出来ました。何故だか理由は全く解りませんが、それほど両親は私にとって大事な存在であったのではないかと今でも思っています。

幸い私は戦後生き永らえて今日に至りましたが、この様な思いは絶対にさせたくないものと、思い出の記を書きました。

短歌

出来ること何かないかと思案して
被災地産の魚野菜買う
　　H　生

冴返るルーペで読める訃報欄
いとしき友よ我が同胞よ
友集ひスペインの春愛でむとて
飛ぶや眼下にシベリアの雪
　　茂木　久夫

咲き誇る花の名前はトランペット
白赤黄色の星流るごと
一刻のむだなく若き職員の
手脚動きぬごみ収集車
森被ふ古墳に沿ひて歩めども
古墳の形わかる日はなき
　　松森　礼子

流されし父母の名前のカード捧げ
避難所巡りの子供心に
幾歳か日々培養のくんし蘭
むらがり咲けるこの姿こそ
　　H　生

俳句

天神台句会
（五月十八日）

津波去り瓦礫を泳ぐ鯉のぼり
節電をゴーヤに託し伸を待つ
赤帽の子ら逢なりて五月晴
　　青木　源司

老猫のごはんはワンコそばのよう
薫風や励まし合えり友の声
夏朝日動画の如く猫の影
　　荒井　スミ

夏場所や携帯やめて四股を踏む
物干しや朝顔の種蠢けり
夏草の繁りて細し一本道
　　梅田　松男

衣更え地下鉄出でて街まぶし
花筏杭にまつわり曲りけり
アイリスの紫雨にしたたれり
　　川部　露子

貯金箱わらび茹がいてまたもどす
早起きもひたいの汗も竹の秋
ちちんぷいまじないできそ青こごめ
　　斉藤　正子

ランドセルあちこち動く新樹光
美少女にちらりとみられ五月来る
つらいこと私にはなし立夏かな
　　佐藤　輝之

家々の花美しき五月かな
母の日やこの一時を惜しみけり
震災で足るを知りたりつつじ咲く
　　四津田富美子

遠山は白き頂きこいのぼり
陽のぬくみあり入れ替えし春衣
声弾み少女の如くつくし摘む
　　高山　房子

裏庭に傘を開いて夏点前
奥山のつつじの寺の百度石
藤棚の垣を越えたる蔓の先
　　滝口　園美

母子の追う夏蝶去りて刻過ぎぬ
多摩川の溜りに咲きし布袋草
東照宮国宝を見て牡丹見る
　　堤　秀夫

藤棚の香り静かな朝影に
のったりと工作船やつばくろめ
芳しき路地に流れし花蜜柑
　　山上　正

駆け降りる斜面一面クローバー
子規庵や鶯谷の駅薄暑
襟元の釦も留めて夏浅し
　　松森　礼子

初物の筍煮めて酒所望
春宵の寒き陸奥光堂
去年の巣を探す燕の日に泪
　　茂本　久夫

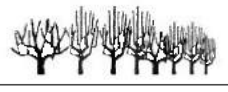
春暁や夢に亡母来て起こさるる
囀や動植物の保護地域
潮入りの池のさざ波夏きざす
　　長谷川　照世

詩

朝

リュウ

見事な筋雲が一本
東西に走っている
東の涯はどこだ
西の涯はどこだ
天空を見渡すものの
見極めるのは　とても不可能
ひょっとしたら
地震雲の一種ではないのか
あまりに美しいので
不気味だった
それでも
僕は　自分の部屋の中へと
戻ってゆかねばならない
紙箱のごとき
胞き部屋の中へ
それが人間
これこそが人



思いのままの人生 友人を偲ぶ

亡くなられた、と聞き大変なショックをうけた。74才で病没するとは本人もさぞかし無念だったろうと思う。青天の霹靂の様に肝臓ガンを宣告され手術をしたが、僅か一ヶ月でみまかられた。この友人の名はRさんというが、私の家とは親戚関係にあり、毎年必ず春と秋には自分で採った山菜のテンプラ等をご馳走になった。酒もよく飲んだが、ビールから始まり、ワイン、ウィスキーと底なしだった。

日本橋に事務所を構え、埼玉県に工場をもった会社の会長であったが、人柄は全く気取りがなかった。学生時代に人生に悩みぬき、上越の山中をさまよい歩いているところを、熊捕りの「またぎ」に保護され、後にこの人の恩義を忘れられずに、山麓にロッジ風の山荘を建てた。そして年に何回もここを訪れては気分転換をはかっていて、私も夏には水上プリンスホテルのゴルフ場で手ほどきを受け、Rさんはついでに山菜を採って、夜の酒の席に出してくれた。

朝は6時ごろ一風呂あびたRさんから、Tさん、一杯やりませんか、と声がかかりいろり端でビールを飲むのだった。

ある冬山荘に呼ばれた。今日は谷川岳を見に行きましょうと。土合という所から谷川沿いに雪深いところを3キロほど歩かされた。途中には一の倉沢という有名な遭難の多い岸壁がそびえていて、ここがそうかと思いを深くした。何故ならここで当時東大の学生だった友人の兄が滑落して遭難した場所だったからである。この友人とは今でも家族ぐるみの付合いをしている。

この片道3キロの雪中行軍は大変な難事だった。Rさんが用意してくれた「かんじき」を履いて歩いたのだが、「かんじき」は足に装着するだけでも大変な代物である。

さて、この時のことがとても強く印象として残り、そこで俳句に作って新聞の俳壇に出してみた。読売新聞の俳壇に秀逸として入選した。1席である。

＝「かんじきを履いて友追うもどかしさ」＝

Rさんの葬儀で出棺する際に、この新聞を棺に入れたいと夫人に申し出て承諾されたが、参列者の前で読み上げてほしいと依頼され、声が小さかったらしく葬儀社の社長が大声で読み上げて花の中に埋め込んだ。

夫人から一番親しい親戚はTさんなので会いに来てほしいと伝言があり、あわてて駆付けてから10日でお別れとなった。　蚕気楼

曲り角

リュウ

妹はいつも唇を結んで
兄を待っている
兄も黙って歩いてくる
赤のランドセルと
黒のランドセル
二つは
なかなか並ぶことがない
時々　小さい方の目が
今にも泣き出しそうになる
追い抜いた兄は
黒い背中で　じっとそれを
見つめているのである
細い脚が前後して
今度は赤が黒を追い抜くと
曲り角が
すぐさま
二人の姿を隠してしまう